

EPAハノイ便り

8月号

令和元年9月13日

ARCベトナム校発行

＊～＊ 看護・介護 専門講義 ＊～＊

8月は看護および介護の理論・実技の研修がありました。日本からいらした専門の先生から指導を受けたり、ハノイ近郊の高齢者施設を見学したりしました。その様子をご紹介します。

★★★ 看護の専門講義 ★★★

看護の専門講義は、約十日間にわたって行われました。ベトナムの看護技術は日本のそれと少し違うため、ベトナムの病院で職務経験のある候補者は驚いたようです。看護3組のドー・ティ・キエウ・タインさんに、講義の感想を聞きました。

「とてもためになりましたが、専門用語がとても難しく、覚えるのが大変でした。また、日本には病



看護の専門講義では、候補者たちが点滴のしかたも学びました。

院へ行かない出産方法もあると知って、驚きました。ベトナムでは必ず病院へ行って、産みますから。」

★★★ 介護の専門講義 ★★★

介護の専門講義は、前半一週間が実技、後半一週間が理論の授業です。



理論の授業でアイマスク体験学習中です。

実技の授業では、移動・移乗介助や食事介助などの技術の実習を行いました。理論の授業では、日本の介護・保険制度について勉強しました。介護8組のチャン・フエン・チャウさんに、介護の専門講義を振り返ってもらいました。

「先生方がこちらの小さな質問に対しても熱心に答えてくださったので、とても勉強になりました。特に移乗介助で腰が痛くならない方法は、役に立ちました。施設見学のとき、実際に利用者さんを移乗する際、技術が足りなかったせいで、私は腰が痛くなりました。ですから、大切な技術だと、そのとき改めて実感できました。」



実技はシーツの敷き方から学びます。

最後に、高齢者施設を見学して発見したことについて、候補者が書いた感想文を紹介します。

★★★ 高齢者施設見学（感想文） ★★★

介護11組 グエン・ティ・アイン・ガン

前に健康な友達の介助する練習をしましたが、本当の利用者さんを介助するほうがずっと難しかったです。車いすを使っている利用者さんに対して、ブレーキをかけたがり、外したりすることに注意しなければなりません。利用者さんを介助しているとき、誰かに呼ばれても、利用者さんから離れないで安全にすることを学びました。

排泄介助の時とおむつ交換の時、尿の色と量を観察して、メモしなければなりません。入浴介助するとき、水の温度を確認すること、利用者さんが転倒しないようによく注意することが大切です。施設の利用者さんは家族の



施設で介助の練習中です。

ことを聞かれた時、大体避けました。だから、利用者さんと話す時、家族のことを聞かないほうがいいと思います。いろいろな体験をしました。面白い日だったと思います。

ふだん目立たない候補者も、専門講義期間は生き生きと生きていました。9月からいよいよ最終学期が始まります。合格に向けてみんなでがんばります。